

夢をつづなぐ

南米ハワイのワチナー社会

<1>

「先人がブラジル社会の発展に果たした貢献は大きい。自分も沖繩県系人の誇りを胸に、ブラジルの発展に貢献したい」

八月下旬にサンパウロ市で開かれた真人移民九十五周年記念式典に今年一月に発足したルーラ労働党政権で大統領府直属の広報長官を務めるルイス・具志堅氏(左)と本部町出身二世IIが出席した。

ブラジル県系人は、連邦下院議員(国会議員)や州議員、市会議員などこれまでブラジル政界に数多くの人材を出している。

「先人がブラジル社会の発展に果たした貢献は大きい。具志堅氏は、ルーラ大統領が最も信頼を寄せた人物の一人として知られ、一時は大統領の有力候補とみなされていたほど。ブラジル社会における県系人の影響力を象徴する存在といえる。」

「本来はブラジリア(首都)から出てはいけないうえに、真人会への要請に応えてくれた。こうした集会に出るのも異例中の異例だ」ブラジル県人会の宮城調智会長(右)と、同頭村出身二世IIはこう言って目を細めた。

強い影響力誇る県系人

具志堅氏の目覚ましい活躍がある一方で、連邦下院で一時は四人の県系人が議席を確保していたが、昨年の選挙までに全員が落選。サンパウロ州議員もゼロとなった。背景には、移民二世と、言葉や文化、習慣のほとんどが現地化している二世以降の世代間ギャップも少なからずあるようだ。

「現地教育を受けた二世、三世はブラジルの気質が強い」と指摘するのは、一九八七年から九〇年まで真人会会長を務めた山城勇評議会委員長(右)と系満市出身二世。

「私の会長時代までは何とか候補者調整ができたが、今は乱立気味で共倒れ状態だ」と分析する。

「私には、移住二世と、言葉や文化、習慣のほとんどが現地化している二世以降の世代間ギャップも少なからずあるようだ。」

「現地教育を受けた二世、三世はブラジルの気質が強い」と指摘するのは、一九八七年から九〇年まで真人会会長を務めた山城勇評議会委員長(右)と系満市出身二世。

「私の会長時代までは何とか候補者調整ができたが、今は乱立気味で共倒れ状態だ」と分析する。

移民95周年式典を前に懇談した稲嶺憲一知事夫妻(左側)とルイス具志堅広報長官夫妻(右側) 8月24日、サンパウロ市内のブラジル沖繩県人会館



裏を返せば、かつてはの社会的地位が高まり、苦難を強いられた県系人一致団結して解決すべき

沖繩の心 世代間で育む

共通の課題が少なくなっている点も挙げられる。結婚の傾向にもブラジル化が顕著だ。二世では日系人以外と結婚する割合は3%だが、三世は45%、四世だと65%に跳ね上がる。五世の時代を迎え、混血率はより高まる見通しだ。

実際に日本語を話さない二世、三世世代が中心になる中、他府県の県人会は厳しい状況にあるという。しかし沖繩県系人は政界進出こそ転換期にあるが、真人会活動はウチナーンチュの心」を継承する世代間のつながりが原動力となっている。

九十五周年式典であり、さつしたブラジル都道府県人連合会の中沢宏一会

長は「ブラジル日系社で最後まで残るのが沖繩県人会だ」と称賛した。真人会幹部の多くは「三線や踊り、太鼓は沖繩の伝統芸能の若い世代への継承が、真人会運動に大きく役立っている」(宮城会長)と口をそろえた。

真人移民九十五周年を迎えたブラジルとアルチン。一九〇〇年に縄から最初の移民が渡り、第一世界はウチナーンチュの心」を継承する世代を超えてウチナーンチュの心を育み、真人会社会の模範を創り出す。

(政経部・外間啓)

ブラジル(上)